

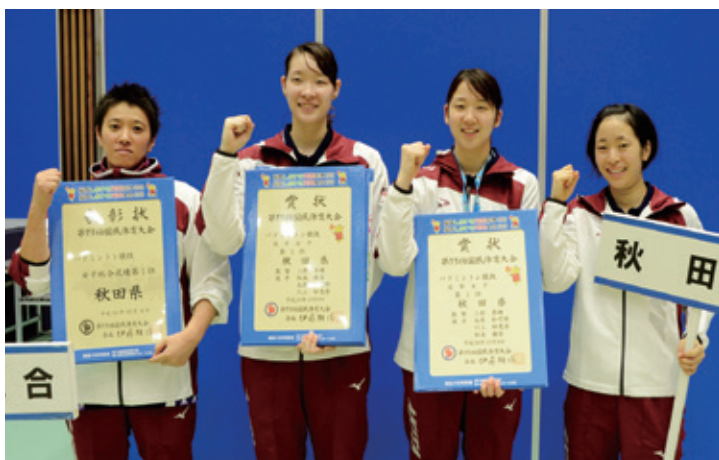


スポーツ秋田

題字：辻 兵吉 元県体協会長



バスケットボール 成年男子 優勝 JR東日本秋田



バドミントン成年女子 優勝 (株)北都銀行
(左から) 三好監督・松本・永原・川上



フェンシング成年男子フルーレ 優勝
(左から) 安部・松岡・松渕

[写真提供：秋田魁新報社]

contents

- ◎第73回国民体育大会(本大会)グラビア…………… 2
- ◎第73回国民体育大会(本大会)入賞者一覧 …… 3
- ◎第73回国民体育大会報告会 …… 4
- ◎第73回国民体育大会(本大会)優勝インタビュー …… 8
- ◎第73回国民体育大会成績と前年度比較 …… 10
- ◎福井国体を振り返って …… 11
- ◎スポーツ能力測定会&スポーツ体験会 …… 12
- ◎期待のジュニアアスリート VOL.2 …… 13

- ◎中学生強化選手育成事業 中・高連携強化プロジェクト… 14
- ◎高校スポーツ。いざ、冬の陣! …… 16
- ◎秋田県スポーツ賞「特別賞」、県民栄誉章 …… 18
- ◎第100回全国高等学校野球選手権記念大会… 19
- ◎トップアスリート雇用企業へ感謝状贈呈・
JSPO公認スポーツ指導者等表彰 …… 20
- ◎総合型クラブ連絡協議会・チャリティゴルフコンペ …… 21
- ◎県内スポーツ・賛助会員・寄付者・事務局だより …… 22

2018 福井しあわせ元気国体



カヌー成年女子スプリント・カヤック
シングル200m優勝・小野祐佳
(秋田県体育協会)



カヌー成年男子スラロームカナディアンシングル
(15G・25G) 2冠・佐々木将汰 (万六建設㈱)



少年男子B100m 2位
黒澤大希 (大館国際情報学院高校)



カヌー成年女子スラロームカナディアンシングル
(15G・25G) 2位・佐藤彩乃
(㈱秋田病理組織細胞診研究センター)



レスリング成年男子フリースタイル
97kg級 2位・門間順輝
(秋田市消防本部)



ラグビーフットボール成年男子 (7人制) 3位
秋田ノーザンブレッツRFC



フェンシング成年男子フルーレ優勝
決勝・果敢に攻める松漣真平 (左)



クレー射撃成年男子 (トラップ団体) 6位
(左から) 小金澤・國澤・中村



ウエイトリフティング成年男子53kg級
クリーン&ジャーク6位・佐藤亮哉 (秋田県体育協会)



第73回国民体育大会(福井国体)入賞者一覧

| 順位 | 競技名 | 種別 | 種目 | 氏名 | 所属 |
|----|------------|--------|--------------------|--------|------------------|
| 1位 | バスケットボール | 成年男子 | | | J R東日本秋田 |
| | フェンシング | 成年男子 | フルーレ | | チーム秋田 |
| | バドミントン | 成年女子 | | | ㈱北都銀行 |
| | カヌー SP | 成年女子 | カヤックシングル 200m | 小野 祐佳 | 秋田県体育協会 |
| | カヌー SL | 成年男子 | カナディアンシングル (15G) | 佐々木 将汰 | 万六建設㈱ |
| | カヌー SL | 成年男子 | カナディアンシングル (25G) | 佐々木 将汰 | 万六建設㈱ |
| 2位 | カヌー SP | 成年女子 | カヤックシングル 500m | 小野 祐佳 | 秋田県体育協会 |
| | レスリング | 成年男子 | フリースタイル 97kg級 | 門間 順輝 | 秋田市消防本部 |
| | カヌー SL | 成年女子 | カナディアンシングル (15G) | 佐藤 彩乃 | ㈱秋田病理組織細胞診研究センター |
| | カヌー SL | 成年女子 | カナディアンシングル (25G) | 佐藤 彩乃 | ㈱秋田病理組織細胞診研究センター |
| | 陸上競技 | 少年男子 B | 100m | 黒澤 大希 | 大館国際情報学院高校 |
| 3位 | ラグビーフットボール | 成年男子 | | | オール秋田 |
| | レスリング | 成年男子 | グレコローマンスタイル 77kg級 | 櫻庭 功大 | 拓殖大学 |
| | レスリング | 成年男子 | グレコローマンスタイル 130kg級 | 大坂 昂 | ㈱三菱電機 |
| 4位 | カヌー WW | 成年男子 | カヤックシングル (スプリント) | 佐々木 優 | 秋田県体育協会 |
| 5位 | バスケットボール | 少年女子 | | | チーム秋田 |
| | ウエイトリフティング | 成年男子 | 105kg級スナッチ | 藤原 和朋 | 秋田日重会 |
| | ウエイトリフティング | 成年男子 | 105kg級クリーン&ジャーク | 藤原 和朋 | 秋田日重会 |
| | レスリング | 成年男子 | フリースタイル 65kg級 | 島谷 東志 | 大東文化大学 |
| | レスリング | 少年男子 | フリースタイル 55kg級 | 島谷 侃 | 秋田商業高校 |
| | レスリング | 女子 | フリースタイル 53kg級 | 佐藤 聖華 | 秋田市消防本部 |
| | レスリング | 少年男子 | グレコローマンスタイル 60kg級 | 吉田 大夢 | 秋田商業高校 |
| | レスリング | 少年男子 | グレコローマンスタイル 125kg級 | 真坂 将太郎 | 明桜高校 |
| 6位 | クレー射撃 | 成年男子 | トラップ | | チーム秋田 |
| | ウエイトリフティング | 成年男子 | 105kg超級スナッチ | 腰山 浩汰 | 秋田県体育協会 |
| | カヌー SL | 成年男子 | カヤックシングル (25G) | 佐々木 翼 | 雫鶴の湯温泉 |
| | ウエイトリフティング | 成年男子 | 53kg級クリーン&ジャーク | 佐藤 亮哉 | 秋田県体育協会 |
| | カヌー SP | 少年男子 | カヤックシングル 500m | 松川 瑛 | 本荘高校 |
| | 馬術 | 少年 | 自由演技馬場馬術 | 佐々木 陸 | 角館高校 |
| 7位 | バレーボール | 少年男子 | | | チーム秋田 |
| | フェンシング | 少年男子 | フルーレ | | チーム秋田 |
| | カヌー SP | 少年男子 | カヤックシングル 200m | 松川 瑛 | 本荘高校 |
| | 水泳(競泳) | 少年男子 | バタフライ 100m | 鎌野目 遼弥 | 秋田市立山王中学校 |
| | 陸上競技 | 成年男子 | 10000m 競歩 | 小林 快 | ㈱ビックカメラ |
| | 陸上競技 | 少年男子 | 共通 110m ハードル | 熊谷 魁 | 秋田中央高校 |
| | 陸上競技 | 成年女子 | 400m ハードル | 関本 萌香 | 早稲田大学 |
| 8位 | ウエイトリフティング | 成年男子 | 105kg超級クリーン&ジャーク | 腰山 浩汰 | 秋田県体育協会 |
| | カヌー WW | 成年男子 | カヤックシングル 1500m | 佐々木 優 | 秋田県体育協会 |
| | 陸上競技 | 少年男子 | 共通円盤投 | 小番 透馬 | 由利工業高校 |
| | 陸上競技 | 成年女子 | 400m | 佐貫 有彩 | 東北大学 |



第73回国民体育大会秋田県選手団報告会

平成30年11月26日(月)、秋田市のイヤタカにて第73回国民体育大会秋田県選手団報告会を開催し、各競技団体の役員や強化担当者等約90名が参加しました。本会策定の「チーム1,000点プラン」で指定した、ターゲット競技S指定6競技とA指定5競技の競技団体の方々から東北総体及び国体の成果と課題、来年の国体の目標及びその目標にむけての取り組みについて報告を行いました。

その報告内容の一部を紹介します。

秋田県スキー連盟

競技本部長 畠山 芳彦

今大会は天皇杯・皇后杯獲得の連覇を目指した大会であり、各方面からの期待と応援を頂き臨みましたが、残念ながら連覇達成にはなりません。優勝3、準優勝3、3位3を含め、入賞数22を数え、秋田県チームは個々の力を充分発揮できたと感じています。ただ、大きな誤算として、JAPANのユニフォームを着る成年Aが不甲斐なく、得点0と情けなさを感じました。今後の課題として、成年Aの特に大学生のトレーニングメニューの管理、特に上位入賞の複数入賞、次世代に繋がる下級生の育成強化、競技力アップに繋がる選手個々の目標設定の管理です。

札幌国体は、天皇杯・皇后杯獲得を目指します。現時点の選手層を見ても充分可能な布陣と捉えています。昨シーズン怪我で参加出来なかったジャンプの馬淵源選手と宮崎敬太選手の優勝経験者2名が復活しました。冬季限られた期間に数多く雪上トレーニングを積み、チャンスがある限り国内でも海外でも遠征させたいです。今までの強化体制を繋ぐためにもジュニアをシニアと帯同させ、強化環境を肌で感じさせる事でスキルアップに結び付けます。

チームAKITA1,000点プランでスキー連盟に与えられた点数は確実に取り、1点でも2点でもプラスしたいです。その為にも、選手が国体本番で最高のパフォーマンスを発揮出来る環境作りが、監督、コーチの役目であり、褒めたり、リスペクトをしながら気合いを入れたり、このような雰囲気に向かっていきます。



秋田県バスケットボール協会

常務理事 千田 裕之

福井国体では、上位進出を期待していた成年女子が東北予選で惜しくも敗退したことで、2連覇の夢は消え3種別の出場となりました。成年男子が初戦から苦戦する展開でしたが、各ゲームとも終盤にポイントを押さえて勝ち進み、決勝は福岡県との対戦となりました。準決勝まで主力選手が不調でしたが、決勝では復活する大活躍で福岡県を突き放し、価値ある2連覇を達成し40点を獲得してくれました。

少年男子は選抜チームであったものの、初戦は息の合ったディフェンスが相手のオフェンスを止めて勝利しました。次の千葉県は強敵で、ハーフの選手が思いのほか正確なプレーをしており、リバウンド、シュートともに圧倒され、1Qの大量失点が最後まで響き、最後まで追いつけましたがベスト16止まりとなりました。

少年女子の初戦はシードとなり、準々決勝で宮崎県との対戦でした。相手の外国人留学生の高さとハーフの選手のうまさに対抗しきれずに敗戦となってしまいましたが、12.5点を獲得しました。この結果、バスケットボール競技の総合成績では62.5点を獲得し、第3位入賞を果たしました。昨年の総合優勝の90点には届きませんでしたが、各種別ともよく頑張ってくれたと思います。

来年の茨城国体からU16による少年男女が始まるにあたり、中学校と高校1年生の強化をするには小学生からの強化が必要と考え、昨年度から『U12郡市選抜大会』を開催しています。中学生の『U14郡市選抜大会』は以前から開催しており、国体強化に小学生を加えたことで、合同練習会では小・中・高の連携を深めた強化が出来るものと考えています。

強化のネックとして、中学3年生が中総体終了後から翌年3月までの練習に制限があり実施が難しいこと。育てた中学生が県外へ流出してしまうなど、県外からの勧誘に対する防止策が秋田県としては全く無いことなどで、優秀な人材が毎年県外へ行く状況です。様々な課題はありますが、バスケットボール協会としては、今後も全力で少年男女の強化にチャレンジしていきたいと考えています。



秋田県レスリング協会

少年監督 宮原 崇

東北総体では少年の部で得点が伸びない中、成年の部では出場した全階級で優勝という快挙を成し遂げ、総合得点で優勝できたことは本国体に向けて大きな弾みとなりました。

本国体では成年の部で7名出場し5名入賞、少年の部で7名出場し、3名入賞しました。少年の部では上位入賞はできませんでしたが、現状の選手層で3名入賞できたことは、多くの県外遠征などの強化事業を行った成果だと思います。また女子の部では1階級しか実施階級がない中、目標に掲げていた5位入賞を達成できたことについては素直に喜べます。

来年の国体は、出場する全種目全階級の得点獲得を目標に掲げます。この目標を達成するために、成年の部の大学生や関東圏で活動している選手に関しては、各所属での強化を中心に行い、在県選手や少年選手には県外遠征を増やすなどして、数多くの選手と組み合わせ、どんなタイプの選手にも対応できるレスリングの確立を目指します。また、これまでの強化計画を見直し、国体直前に行っていた強化事業を早い段階から計画的に実施して行きたいと思っています。

次年度から女子の階級が1つ増えることが決まり、更なる女子の強化が必要となってくるため、選手の確保に力を注いでいきたいと思っています。



秋田県フェンシング協会

強化部長 伊藤 聡

県体協のチームAKITA1,000点プランで、フェンシングはS指定であり目標得点の46点を基に、当協会としても更に高い独自の目標を掲げ強化を取り組み、東北総体では全種目国体出場を目指し、国体では成年男子フルーレで4位以上、成年女子フルーレで3位以上、少年男子フルーレで8位以上、少年女子フルーレでは



3位以上を達成目標として取り組んできました。

具体的には成年男女・少年男女ともに全国上位レベルのチーム・選手が出場する大会、あるいは練習会へ参加し、多くの試合をして経験を積み上げることをおこなってきました。試合後は試合の分析をし、各選手の強化ポイントを探り、合宿で強化しました。結果は成年男子フルーレで優勝、少年男子フルーレで7位に入賞し、成年男子と少年男子に関しては目標を達成することができました。しかし、期待された成年女子フルーレ・少年女子フルーレは2回戦敗退となり悔しい結果になり、全種別での獲得点数が30点でした。

力の持っている選手を国体の本番でその力を出し切らせることの難しさ、そして自身の指導力不足を痛感しました。

来年度に向けて強化策の中身をさらに発展させようと考え、計画しています。



秋田県カヌー協会

理事 藤田 芳哉

スラローム・ワイルドウォーター競技については、国体が台風の影響で公式練習及び競技日程の変更があり、また、悪天候の中で体調の調整等が大変でした。

特にカナディアン競技の佐々木将汰選手と佐藤彩乃選手は前の週までワールドカップに出場していたので、国体ギリギリの帰国となりハードな日程調整となりました。ハードな日程の中、カナディアン競技の15ゲートと25ゲートで佐々木将汰選手は優勝し、佐藤彩乃選手は準優勝しました。カヤック競技では佐々木翼選手が25ゲート6位、ワイルドウォーター競技の佐々木優選手は1500mで8位、スプリントで4位でした。

スプリント競技については、小野祐佳選手の2種目優勝を期待していましたが、200mで優勝、500mでは準優勝という結果になり、2年連続2種目優勝を逃しました。アジア大会に照準を合わせていたことや艇のセッティングを変えたことにより、本来の力を出し切れず非常に悔しい結果でした。

また、松川瑛選手は愛媛国体200m競技で優勝した選手であり、福井国体では2種目上位入賞を期待していましたが、500mで6位、200mで7位と大きく順位を下げてしまいました。

茨城国体に向けては、メンタル面の強化に取り組んでいくことや、東北各県で開催している合同合宿に参加し戦力分析を行いながら、選手それぞれの課題を再認識させながら課題克服につなげていきたいと思っています。そして今後も国内だけではなく世界で活躍できる選手を育てることを目指し、強化に取り組んでいきます。



秋田県ウエイトリフティング協会

理事長 吉川 勇

東北総体は成年男子の国体出場選手4名枠確保のため、団体4位以内を目指し戦いました。少年男子は東北高校選手権、インターハイの結果からも苦戦が予想されましたが、結果が優勝者0となり、団体で5位と低迷してしまいました。成年男子は順調に得点を重ね、1位の福島県に3点差の2位という成績を収め、4名枠を確保しました。女子は3名出場しましたが、国体出場枠を獲得するには至りませんでした。

福井国体では成年53kg級の佐藤亮哉選手がトップバッターとして出場し、毎年高得点を取り県勢の勢いを付けますが、怪我の影

響もありスナッチが9位で入賞できず、クリーン&ジャークは6位入賞という結果でした。105kg級の藤原和朋選手は安定した試合運びで、2種目共に5位に入賞しました。105kg超級の腰山浩汰選手はスナッチ6位、クリーン&ジャークは8位に入賞し、本人も自信が付き、今後記録が伸びると思います。成年は予想通りの戦いで点数を獲得しましたが、少年はインターハイ、東北総体後に強化合宿を重ね記録を伸ばしたものの、メンタルの弱さが出てしまい本番で力を発揮できず、もう少しのところで入賞できませんでした。

来年の国体は、成年男子は軽量級、中量級の大学生が伸びてきていますので大学生も加えての上位入賞、女子は3名の出場枠の確保、少年は強化合宿を重ねメンタル面を強化し入賞を目指します。



秋田県弓道連盟

会長 渡辺 鐵哉

東北総体を勝ち抜くのは非常に至難であり、今回は3種別国体に出場できましたが4年前は0です。ここ数年国体に出場できているのは、強化がある程度成果を上げているからだと思います。

少年男子は久しぶりの国体出場で、東北総体での内容が良く、一人ひとりが十分に力を発揮した戦いぶりでした。それは指導陣の指導の仕方、選手の選考の仕方、強化の仕方が良かったからだと感じています。しかし、少年女子は昨年のインターハイで3位に入賞した主力選手が入っていましたが、国体に出場することができませんでした。力通りの結果を出せない歯がゆさを感じるということを経験しました。

国体の結果は少年男子が近的で9位、成年女子も近的9位で入賞にあと一步でした。成年男子は近的で13位でした。成年男子は昨年近的で準優勝、女子は一昨年遠的で優勝しており、このような過去の輝かしい実績に潰されてしまったということもあったと思います。東北総体を通過すれば国体ではなんとかなるという甘い考えがどこかにあり、結局は過去の実績が無言のプレッシャーになってしまう、特に女子についてはその傾向が強かったと思います。また、練習中にちょっとしたアクシデントがあり、選手はそれを引きずり、我々指導陣はその変化への対応が上手くできませんでした。

秋田県の選手はメンタル面が弱いと言われており、メンタル強化に対しての特別な指導のご援助をいただければ有り難いです。本連盟組織や強化体制は弱体であり、個人の熱意、情熱に頼る部分が非常に多く、その打破がなかなかできない状況ではありますが、期待に応えられるように来年は全種別国体に出場し、目標である24点獲得に向けて頑張ります。



秋田陸上競技協会

理事長 安田 真人

国体では少年男子3種目、成年男子1種目、成年女子2種目の計6種目で入賞しました。獲得点数は15点という結果となり、昨年よりも1点減少したものの、入賞種目数は昨年の4から6に伸ばすことができました。昨年入賞のなかった少年男子で入賞することができましたが、少年女子での入賞がなく女子強化が今後の課題となっています。僅差で入賞には届かなかった少年男女のB種目で健闘した選手が多く、今後の国体での活躍が期待されます。

来年の茨城国体は天皇杯得点30点（成年10点、少年20点）以上



を目標にしています。具体的な方策としては、練習会・合宿等で中学生の選考を増やし、中高連携をさらに強化します。3回開催予定の国体合宿には成年選手が多く参加できるよう日程を調整し、成年少年合同で練習を行うことで内容の充実を図ります。指導者の資質向上のため、さまざまな資格取得や研修会へ積極的に派遣するなど、以上のことに、特に力を入れて取り組んでまいります。

決勝に進むためには予選、準決勝を通過しなければいけません。当日の気温、湿度、風向等によって記録が左右されます。国体は長い遠征になるので体調管理、コンディション作りについて、今後も指導強化に努めてまいります。



秋田県ボート協会

副会長 鎌田 博

東北総体は成年少年合わせ12種目出場し7種目通過しましたが、通過しなかった少年女子のダブルスカルと成年女子のフォドルプルは残念ながら叶いませんでした。

国体はインターハイで4位に入賞した女子フォドルプルの本荘高校、同じく4位に入賞したシングルスカルの秋田高校茂内さくら選手、東北総体1位通過した男子フォドルプルの本荘高校などが出場しましたが入賞できませんでした。茂内選手は順位決定戦でオールが折れるアクシデントがあり棄権となり得点に結びつきませんでした。

反省点として、少年は強化拠点校で中心に指導していた先生が異動となりコーチングスタッフが不足し、1人の先生が高校の全種目を指導しており、ここに関しては県協会として指導者に対してのサポートを十分にできなかったことを反省しています。成年は男女とも全員大学生で、全員揃っての練習ができませんでした。

来年度に関しては、少年は今年1人の高校の指導者に頼ってしまいましたが、そのようなことにならないように県協会として対応し、強化していきたいと考えています。成年は高校から大学への送り込みが上手くいっており、大学生が多くいるので所属チームとのスケジュール調整を早めに行い、東北総体前に選手を集めて練習時間を多くし、国体では実業団の一角を崩せるよう、協会として頑張っていきたいと思っています。



秋田県ラグビーフットボール協会

副理事長 新出 康史

目標44.5点に対して30点という結果でした。

少年はオール秋田で臨み1回戦で今大会優勝した奈良と対戦し、完敗しました。全国上位から見た場合、パススキルや判断スキル、DFスキル、ゲームコントロール力が劣っていました。もっとレベルの高い経験を積ませる必要があると感じています。

成年男子は秋田ノーザンブレッツ単独で出場し、目標は決勝進出でしたが、結果は3位でした。しかし、準決勝では優勝した地元福井に1トライ差であと一步と非常に惜しい結果でした。課題としては選手の確保で、秋田出身の代表選手を中心に獲得していますが、県内の就職先の確保に加えて、県内の高校を卒業する選手にチームに入って頂き育成していく必要があります。

女子は高校生から社会人までのチーム編成となり、秋田ノーザンブレッツに若干のふるさと選手を加えて出場しました。結果は

東北総体で国体を控えて成長著しい青森県に決勝で惜敗し、国体出場を果たせませんでした。課題としては現在高校生が中心ですので、社会人の選手が地元に残ってもらい、或いは大学に行った選手に帰ってきてもらうための対応が必要と考えています。

来年の国体の目標は少年ベスト4とし、底辺となる中学生との合同練習はもちろんですが、秋田ノーザンブレッツとの合同練習の機会を増やしていこうと高体連と話し合っています。成年男子は決勝進出を目標とし、実戦の機会を確保していくことと、テクニカルアドバイザーの花岡氏のノウハウと人脈を活かし、色々な分野の専門家を招聘する新規事業を行います。中学校、高校の指導者にも参加して頂きたいと考えています。女子は決勝トーナメント進出を目標とし、高校卒業後秋田県に留まって頂いて、社会人になってもラグビーを続けてもらうことが必要で、就職先の確保、1回県外に出た選手に帰ってきてもらう、場合によっては他県の有力な選手に来てもらうことも視野に入れて強化をしていきます。

各カテゴリーが連携して、底辺拡大も含めて総合的取り組みを短期、中長期的な視点で進めていきたいと考えています。



秋田県バドミントン協会

強化副委員長 平山 政史

成年女子は昨年の愛媛国体の優勝に続き2連覇をすることができました。北都銀行に所属しているナショナル選手A代表3人の活躍が大きいと感じています。成年男女とも各強豪県はナショナル選手を出場させてきていることから、来年も厳しい戦いになると予想されます。来年は、東京五輪の予選が始まり北都銀行のナショナルA代表は世界大会がメインとなってくると思うので、茨城国体の出場は厳しい状況です。それでも北都銀行の選手を中心に3連覇を目指したいと思っています。

成年男子は東北総体で優勝し、国体では初戦敗退でした。来年は北都銀行が中心メンバーで東北総体優勝、国体ベスト8を目指し頑張っていきたいと思っています。

少年男女は毎年東北が全国上位レベルで青森県の青森山田高校男女、福島県のふたば未来学園高校男女、宮城県の聖ウルスラ学院高校男女が大きな壁となっていて、国体出場は非常に厳しい状態になっています。本国体の出場を考えると、秋田の高校生のレベルを全国レベルに引き上げることが課題であるものの現状では厳しい状況です。この全国レベルの高校は中高一貫校で中学も全国上位レベルで、小・中学校の強化が秋田県でも必要になってくると思います。県内の中学校で団体が組める学校は4、5校しか無い状況のため、秋田県体育協会には中学校にバドミントン部を作してほしいという要望はしていますが、実現は難しい状況となっています。

北都銀行の女子が世界大会で活躍している状況のなか、小・中の強化が図れていないのは、本会の課題であると感じています。この状況を変えるべく、今年から北都銀行バドミントン部を中心に秋田県内30ヶ所で小・中・高・レディース・社会人を対象にバドミントン教室を開催し、バドミントン普及と選手の掘り起こしに取り組んでいます。今後の県内バドミントン競技の普及と強化に向けて北都銀行を中心に活動していきたいと思っています。





公益財団法人秋田県体育協会会長 小笠原直樹【山梨スケート国体、新潟スキー国体、福井国体 団長】



昨年の愛媛国体では天皇杯・皇后杯20位と大躍進を果たしたわけですが、1年経って残念ながら3年前の順位に戻ってしまいました。昨年と同様の順位は大変厳しいと思っていましたが、せめて20位台にはなんとかして踏みとどまりたいと考えていました。しかし、結果は冬季を合わせた天皇杯得点787.5点、天皇杯順位38位、皇后杯39位という結果に終わってしまい、大変残念な結果でしたが、ここを定位置とするわけにはまいりません。3年前までの順位まで衰退した要因の1つは少年部門の不振だと分析しております。

成年はバスケットボール女子が東北予選で敗退してしまうなどもありましたが、フェンシング男子、バスケットボール男子、バドミントンの女子、カヌーなどで全国のトップに立つことができ、期待通りの結果を出していただいたと思っております。

しかし少年種別では、お家芸としてきたレスリング、フェンシングなどが低迷したほか、ウエイトリフティング、弓道、ボートでも入賞を逃すという展開となりました。スポーツ立県を標榜している本県は、天皇杯で10位台、獲得点数1000点を目標とし、本会ではチームAKITA1,000点プランを作成し、これを目標に取り組んでおります。各競技団体にはもう一段高い目標を掲げ、普段から強化に取り組んでいただきたいと思います。できない理由をいろいろあげることはできますが、金足農業高校野球部の例を持ち出すまでもなく、私たちはこの夏、本当に目を見張るような金農の大活躍を見ることができました。県立高校、しかも農業という実業高校、そして選手は秋田市周辺の出身者、そういう選手で固めたチームでしたが、そのチームが他県から有望選手をかき集めた強豪の私立高校を打ち破り決勝進出を果たしたのですから、もう人口減少だから無理だ、雪国だからできない、良い選手が他県に引っぱり張られていくから上を目指せない、地方のハンデがあるからという言い訳は通じなくなったというふうに考えます。もとより国体の順位だけにこだわるつもりはありませんが、しかしながらスポーツ王国秋田の復活・再建を合い言葉にして、志を高く持ち、各競技団体は心をついにし、チャレンジし続け、上を目指し続けなければならないと思いますし、そうしていかねばならないと思います。そうした取り組みこそが様々な要因で低迷している今の秋田を奮い立たせるカンフル剤になるのではないかと思います。それがスポーツの持つ力だと信じております。スポーツをすることの意味、スポーツに熱心に取り組む意味、スポーツの原点を踏み外さず、今期の国体での反省を踏まえ、さらに競技力を向上させるために一生懸命皆様と共に取り組んでいきたいと思っております。

秋田県観光文化スポーツ部次長 恵比原 史 氏



バドミントン成年女子の現地応援に行きましたが、地元福井県との決勝戦ということもあって、入場制限で入れない完全アウェーの中、決勝を制しました。この優勝が本県ジュニア選手の強化につながっていくことを期待しています。また、特別競技の高校野球に出場した金足農業高校野球部が球場をたくさんの人で埋め尽くすなど、人の心を動かすスポーツの力に改めて驚かされたとともに、スポーツの可能性を再認識しました。本日の報告会では今大会における成果と課題はもちろん、スポーツ王国秋田を復活させ、秋田を元気にするため、スポーツの力をいかに活用していくべきかという点についても検証を行い、本県選手の更なる飛躍につなげていただきたいと思います。

秋田県議会議長 鶴田 有司 氏



今国体では天皇杯38位、皇后杯39位と昨年の国体と比べると残念な結果でありました。やはり少年種別の得点の伸び悩みがあったと感じています。ジュニア層の強化なくして、その先の成年での活躍は望めないことから県、県教委、県体協、各競技団体が今後も一体となって、ジュニアアスリートの育成強化に取り組んでいくことが大変重要であると考えております。少子化もあり、いろいろと難しい面もあるかと思いますが、皆様には引き続きお力添えを賜り、金農のような事例もありますので、やればできるという想いで今後も進んでいかなければいけないと思っております。茨城国体始め、各種大会での活躍を期待しています。

秋田県教育庁保健体育課課長 高橋 周也 氏



今夏、甲子園2回戦からチームと同宿舎で過ごし、間近に接した中で感じたことがあります。野球というチームスポーツの指導であっても、個別性ということがこれからのコーチングの鍵になっていくのではないかと考えております。競技力の維持、向上におきましては次から次へと最新のコーチング理論が出てきます。しかし必ずしも最新が最良ではないということを今夏の甲子園で金農ナインは証明してくれたのではないかと思います。それぞれ持っているチームの実情により、戦力、戦術、戦略は変わってきます。主体性を持った個を育て、その個の力をチーム力に変え、結果に結びつけていく。そのためには選手誰もが納得できる根拠に基づいた指導が大切だと強く感じました。

福井国体総監督 総括 公益財団法人秋田県体育協会副会長 茂木 優



昨年は天皇杯、皇后杯共に20位、今年は昨年から大きく後退し天皇杯38位、皇后杯39位という結果でした。悔しい思いを今日から来年に向けて皆さんとともに力を合わせて頑張っていきたい。勝ったチームも国体に出場できなかった競技団体もあります。選手のために諦めないで一生懸命努力して頂きたいと思っております。本県は少子高齢化で大変大きな壁にぶつかっています。本県だけではなく、同じ環境の県も沢山あります。しかし、子ども達、選手がその競技を頑張りたいと来た以上は受け入れ側にも責任があります。しっかりとした指導をして社会に立派に通用する、社会に必要とされる人間を育てて頂きたいです。本県は平成21年スポーツ立県あきたを宣言していますが、かつてはスポーツ王国秋田と言われていました。スポーツ王国秋田を目指して今日から皆さんと力を合わせて是非進んでいきたいと思っておりますので今後ともよろしくお願い申し上げます。



福井国体 優勝インタビュー

カヌー競技

成年男子 スラローム
15 ゲート・25 ゲート 優勝
佐々木 将 汰 選手
(万六建設㈱)



1. 福井国体の結果について

①決勝に向けて特に意識したこと

国体は今シーズン最後の試合だったので、シーズン中の課題でもあった1本目で一番良いランをする事を意識して望みました。ワールドカップや世界選手権のような試合になると1本目で一番良いランをしなければその後の準決勝や決勝に進めない事になるからです。

②優勝しての感想

国体で優勝してみても僕自身はまったく満足できていません、一つ目の質問で答えた1本目のランをしっかりと決めるという事を出来なかったからです。シーズン最後の試合で良い内容でシーズンを終わらせたかったのですが、それが出来ず悔しい気持ちです。この内容では世界でメダルを取ることが出来ません。もっと高いレベルでレースをしなければいけません。そこは来年に向けての反省点です。

③勝因について

勝つ事が出来たのは長い間サポートしてもらっている所属先の万六建設のお陰です。この大会に出場する以前にまず僕がこうして毎日カヌーが出来る事、毎年日本代表に選ばれワールドカップや世界選手権に出場出来るのは会社があっての事なのでその力がどこに行っても、どの大会に出ても一番大きい力になっています。今回勝てたのは技術面等もありますが一番はどんな時でも僕の力になってくれる会社の応援のお陰です。

2. 競技を始めたきっかけ・理由

僕がカヌーに出会ったのは小学5年生です。学校の授業で行った保呂羽山でカヌー体験をし、『こんなに楽しいものがあったのか!』と強烈な印象を受けたのを今でも覚えています。その後すぐ両親にカヌーを競技としてやってみようと言ったのが全ての始まりです。

3. 今後の抱負(目標)

一番大きな目標が2020東京オリンピックでメダルを獲得する事です。その為には来年のオリンピック代表選考レースで日本人のトップにならなければいけません。僕の種目はリオデジャネイロオリンピック銅メダリストの羽根田卓也選手がいます。まず来年の選考レースで羽根田選手に勝つオリンピックでメダルを狙いたいです。

4. 競技者へのアドバイス

僕から出来るアドバイスは何故スポーツが出来ているかを良く考えて下さいということです。人それぞれ立場は違います。部活動、社会人アスリート、プロアスリートなど、どの立場でも必ず、助けになってくれる人、会社、両親などたくさんの方の支えがあり競技ができています。その一番核の部分で良く考えて競技に取り組めば自分の強さになります。これが僕からのアドバイスです。

カヌー競技

成年女子 スプリント
カヤックシングル 200m 優勝
小野 祐 佳 選手
(秋田県体育協会)



1. 福井国体の結果について

①決勝に向けて特に意識したこと

アジア大会の振り返りからスタートの3パドル目までの強化を課題としていたので、理想に近づけるよう集中しました。前日500mは体調不良から後半失速し2着でしたので200mは押し切って勝とうと思いました。

②優勝しての感想

どんな状況下でも勝ち抜く難しさを知りました。今試合は、波風が強いコースで艇の調整がうまくいかなかったこと、体調が万全ではなかったこと等、普段と違う状況が重なりました。2019年と2020年を勝ち抜くための教訓になりました。

③勝因について

①にお話したとおり、スタートの強化ポイントを今できる100%で実行したことが勝因だと思います。体の動きが悪かった割に公式試合でのベスト記録が出ていたので来シーズンが楽しみです。

2. 競技を始めたきっかけ・理由

小学3年生の夏休みに出身地である由利本荘市でカヌー教室があり、父親と行ってみました。秋田国体に向けての取り組みだったことは、ずっと後になって知りました。毎週末の教室では幅が広くバランスの良いカヌー(スラローム艇)に乗って楽しかったです。教室最終日のレースで銅メダルをもらいました。その時に楽しかっただけのカヌーで、もっと速くなりたという気持ちが湧いたことが、競技を始めたきっかけです。

3. 今後の抱負(目標)

最終目標は2020年東京五輪での金メダル獲得です。まずは来年2019年の世界選手権とアジア選手権で五輪出場枠を獲得します。試合に向けて、最大のピーキングができるよう、冬季トレーニングをこれまで以上に厳しく確実にこなしていきます。体調管理には十分気を配っていかねばなりません。応援して下さる方々へ感謝を常に持ち、一生懸命取り組んでいきます。

4. 競技者へのアドバイス

3点あります。競技ができる環境がどれだけ貴重で、有難いことなのか、感謝の気持ちを忘れないこと。2つ目は勝つ自分をイメージし続けること。思考は行動が変わります。勝つ自分は、何をいっとうしてそうなっているのか、考え、動き続けることが必要だと思います。それからアスリートの資本である身体のメンテナンスを念入りですることです。トレーニングと同じくケアにかける時間を1秒でも長く大切にしてください。

バスケットボール競技

成年男子 優勝
山崎 渉 真 選手
(J R東日本旅客鉄道㈱秋田支社)



1. 福井国体の結果について

①決勝に向けて特に意識したこと

決勝までの二試合(準々決勝、準決勝)、シュートの調子が上がらずにいましたが、仲間からの励ましや応援して下さる方々の想いをしっかり受け止め、気持ちを切り替え決勝に臨むことができました。【失敗しても下を向かず、挑戦者の気持ちで40分間戦い抜く】とチーム全員で意識して挑みました。

②優勝しての感想

日頃から私たちを支え、ご声援を送って下さる全ての皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。二連覇は、厳しい挑戦であることをチーム全員が理解していました。それでも、昨年の感動をもう一度味わいたいという思いや、秋田で待っている皆さんに明るい報告がしたいという強い思いがあり、チーム全員で最高の準備をしました。様々なプレッシャーがある中での優勝は、とても嬉しかったです。

③勝因について

昨年度のチームの反省としてインサイドの得点が少ないことがあげられ、今年はその点を重点的に強化し、チーム力向上を図りました。国体では終始インサイド陣が体を張った力強いプレーでチームを引っ張り、安定した試合運びができたことが勝因だと思います。

2. 競技を始めたきっかけ・理由

小学校4年生の時、担任から「身長が高いからバスケット部に入ってみたら」



と言葉を掛けられ、バスケ部に見学し、そのまま入部しました。担任には心から感謝しています。

3. 今後の抱負（目標）

今年度の全国大会は、今回の国体と合わせて二つあります。その一つである国体で優勝できたことは、自分たちにとって大きな自信となりました。来年二月に開催される「全日本社会人バスケットボール地域リーグチャンピオンシップ」の優勝がチーム最大の目標です。引き続き、気を引き締め、優勝を目指します。

4. 競技者へのアドバイス

私は「なんとなくやる練習」が嫌いです。気持ちの入ってない練習や、ただこなすだけの練習は自分のためにならないと思っています。目標を高く持ち、「自分がなりたい姿」をイメージして練習に取り組んだら、自分自身ははっきり見え、練習等に取り組む姿勢が変わってくると思います。

バドミントン競技

成年女子 優勝

三好 奈緒 監督
(栃北都銀行)



1. 福井国体の結果について

①決勝に向けて特に意識したこと

昨年度の優勝に続く2連覇の期待と、ナショナルA代表に属している選手3名で結成されたチームということもあり、周囲からは優勝して当たり前という期待もありました。国体ではチーム戦となりプレッシャーも大きく、個人個人の能力だけでは簡単に勝てる大会ではないという認識を持ち、1試合1試合確実に勝つことをまずは優先しました。私も監督としての初の経験ということもあり、選手と共に驕らず1点を積み重ねることに集中しながら戦うことを特に意識しました。

②優勝しての感想

選手と共に感じていたものは、日頃から温かくご声援いただいている県民の皆様へ少しでも恩返しができる場所がこの国体での場だと感じていました。

今大会で優勝することには、それ程の価値があると信じ、必死にシャトルを追い、結果に繋がったことに安心して嬉しく思っています。優勝を決めた後、沢山の方々からお祝いのお言葉をいただき、まだまだ返すご恩があり、今後も感謝の気持ちを持って競技に打ち込むことを改めて誓いました。

③勝因について

1回戦から、気を抜かず優勝するまで戦い抜く事を意識しましたが、準決勝で国体の怖さを味わうことになりました。今年8月に中国で行われた世選手権大会で優勝を果たした永原・松本ペアが敗戦し、あと1つ落とせば目標の優勝への道が絶たれる絶望的な状況となり、チーム内でも重苦しい雰囲気になりました。そこを救ったのがシングルの川上選手。ギリギリの死闘を勝ち切り、チームに一筋の希望をもたらしてくれました。その後松本選手もシングルスで勝ち、苦しみながらも価値ある1勝となったと思います。今思えば、この苦しい1勝がなければ優勝は有り得なかったのではないかと思います。

2. 競技を始めたきっかけ・理由

競技を始めたきっかけは両親でした。母が地元のジュニアクラブを運営しており、必然的に始める事になったことを覚えています。ただ、両親はバドミントンを始めることを強制したわけではなく、自ら遊び感覚でラケットを持ちいつの間にかバドミントンの魅力にはまったのだと思います。そういった状況だったので、正式に競技を始めた年齢は小学生の低学年頃でしたが、未だにはっきりしていないのが現実です。

3. 今後の抱負（目標）

2007年に開催された秋田国体のため、現在もお世話になっている北都銀行に声をかけていただき実家のある福岡から秋田に来る事になりました。これまで国体では、ベスト8の壁を越えることが出来なかったのですが、この秋田国体では初の2位という結果を残すことが出来ました。実力の何倍もの力を出すことが出来たのは、県民の皆様のご心温まるご声援が引き起こした奇跡だと今も思っています。現在秋田に来て15年目を迎え、今もその当時いただいたご恩をまだまだ返し切れていないと思っています。今後の抱負として、そのご恩を返すために、自分の出来るバドミントンという競技を通して子供達の育成や北都銀行バドミントン部のスタッフとして秋田県のスポーツの発展のために尽力したいと思っています。

4. 競技者へのアドバイス

正直アドバイスを出来る立場ではないと思いますが、自分が指導者として今考えていることは、ただ選手に物事を押し付けるだけではダメなのではないかと最近感じています。国体を経て感じたこともあります。選手にも感性があり、自主性もあります。指導者側が、練習に対しての取り組みや方法を押し付けるだけでは、選手の「考える」という感性を奪ってしまうこともあるのではないかと思うことが多くなりました。もちろん舵取りは大事です。人生を長く経験し、選手がこれから経験をすることを指導者は経験済みだからこそ方向性を示すことは続けなければならないと思っています。ただ、その中でも選手の自主性を重んじ、共に夢に向かって歩いていく意思も必要なのではないかと思っています。

それから競技者への想いですが、選手はまず目標に対し明確なプロセスを組み、それに従い練習に取り組む事が大事ではないかと思えます。そしてそれをとことん追求し、練習で追い込むこと。その流れを作っていくことで、目標の位置に達する近道になるのではないかと考えています。

フェンシング競技

成年男子 フルレー 優勝

松岡 慧 選手兼監督
(秋田県体育協会)



1. 福井国体の結果について

①決勝に向けて特に意識したこと

昨年までの3年間、準決勝まで進みあと一步が届きませんでした。チーム全員が試合を楽しむことよりも「優勝」を意識し過ぎてしまったからです。そこで、今年の準決勝や決勝戦では目の前の試合に集中すること、試合を楽しむことをチーム全員が意識するようにしました。

②優勝しての感想

3回目の優勝でしたが今年にける思いが強かったので今まで1番嬉しかったです。そして、優勝した時の感動を応援して下さった方々と共有できたことが何より嬉しかったです。また、教え子と組んだ初めての年と、安部と組んで4年目ようやく掴んだ優勝でしたので、きっと一生忘れることのない大会になりました。

③勝因について

「秋田県はいつも楽しそうに試合をしている」とよく他県の選手や指導者に言われることがあります。優勝するために各々が技術を磨いてきたことはもちろんですが、それ以上にチーム全員が国体を楽しみながら試合できたことが優勝という結果に結び付いた一番の要因だったと思います。

2. 競技を始めたきっかけ・理由

小学生の頃は野球部に入部しましたが、練習中ボールが顔に直撃してしまいすぐに辞めてしまいました。何かスポーツを始めたいと考えていた時に映画のワンシーンに映ったフェンシングがかっこよく、県内のクラブチームに見学に行き生で見たフェンシングに心を奪われ始めたことがきっかけです。

3. 今後の抱負（目標）

もちろん国体の2連覇です。しかし、これからのチームを任せられる程に遅く育った選手もいます。簡単にバトンは渡しません、もしタイミングが来たらいつでもサポート側に回り、近いうち秋田県が国体で総合優勝できるようにすることが一番の目標です。

4. 競技者へのアドバイス

フェンシングに限らず、スポーツをしているみなさんに共通して言えることは、競技を好きになることが大切だと思います。自分自身、好きなことだから辛い練習も乗り切れましたし、勝つ時にはもっと強くなりたいという気持ちが生まれました。今現在、思うようにいかず悩んでいる選手がいたら、自分が好きなことをして苦しみ必要はないと思いますので、原点に戻って楽しむべいいんだという気持ちで頑張っていたらと思います。一緒に秋田を盛り上げていきましょう。





第73回国民体育大会成績と前年度比較

- 第73回国体 総得点 387.5点 + 参加点400点 = 787.5点
- 第72回国体 総得点 589.0点 + 参加点400点 = 989.0点

| | 冬季国体 | 本国体 | 天皇杯得点 | 天皇杯順位 | 皇后杯得点 | 皇后杯順位 |
|------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|
| 第73回 | 110.0点 | 277.5点 | 787.5点 | 38位 | 450.0点 | 39位 |
| 第72回 | 140.0点 | 449.0点 | 989.0点 | 20位 | 582.0点 | 20位 |

第73回大会 総合成績

天皇杯
(男女総合得点)

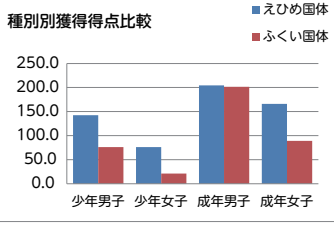
皇后杯
(女子総合得点)

| 県名 | 順位 | 得点 | 県名 | 順位 | 得点 |
|-----|-----|---------|-----|-----|--------|
| 福井 | 1位 | 2896.0 | 福井 | 1位 | 1462.5 |
| 東京 | 2位 | 2246.0 | 東京 | 2位 | 1280.5 |
| 大阪 | 3位 | 1880.0 | 大阪 | 3位 | 1046.0 |
| 埼玉 | 4位 | 1825.5 | 愛知 | 4位 | 1007.0 |
| 千葉 | 5位 | 1708.5 | 埼玉 | 5位 | 957.5 |
| 愛知 | 6位 | 1687.5 | 神奈川 | 6位 | 884.0 |
| 神奈川 | 7位 | 1611.0 | 千葉 | 7位 | 830.0 |
| 福岡 | 8位 | 1468.0 | 福岡 | 8位 | 815.0 |
| 北海道 | 9位 | 1407.25 | 兵庫 | 9位 | 814.0 |
| 兵庫 | 10位 | 1312.5 | 愛媛 | 10位 | 763.0 |
| 岡山 | 11位 | 1288.5 | 長野 | 11位 | 731.5 |
| 愛媛 | 12位 | 1235.0 | 岡山 | 12位 | 707.5 |
| 長野 | 13位 | 1233.5 | 静岡 | 13位 | 698.0 |
| 岐阜 | 14位 | 1232.5 | 茨城 | 14位 | 689.5 |
| 京都 | 15位 | 1156.0 | 北海道 | 15位 | 666.25 |
| 茨城 | 16位 | 1120.0 | 鹿児島 | 16位 | 647.0 |
| 鹿児島 | 17位 | 1041.0 | 岐阜 | 17位 | 646.0 |
| 広島 | 18位 | 1033.75 | 広島 | 18位 | 637.75 |
| 静岡 | 19位 | 1033.5 | 京都 | 19位 | 613.0 |
| 三重 | 20位 | 995.5 | 三重 | 20位 | 600.0 |
| 大分 | 21位 | 974.5 | 群馬 | 21位 | 591.5 |
| 富山 | 22位 | 966.5 | 石川 | 22位 | 581.5 |
| 石川 | 23位 | 956.0 | 山形 | 23位 | 575.25 |
| 岩手 | 24位 | 939.5 | 富山 | 24位 | 558.0 |
| 奈良 | 25位 | 919.0 | 岩手 | 25位 | 555.5 |
| 熊本 | 26位 | 915.5 | 栃木 | 26位 | 538.5 |
| 和歌山 | 27位 | 912.5 | 熊本 | 27位 | 537.5 |
| 栃木 | 28位 | 875.5 | 香川 | 28位 | 526.0 |
| 香川 | 29位 | 859.5 | 大分 | 29位 | 523.5 |
| 宮城 | 30位 | 859.0 | 奈良 | 30位 | 520.5 |
| 滋賀 | 31位 | 854.5 | 山口 | 31位 | 504.5 |
| 群馬 | 32位 | 846.0 | 佐賀 | 32位 | 504.0 |
| 佐賀 | 33位 | 826.5 | 山梨 | 33位 | 486.5 |
| 山形 | 34位 | 817.25 | 長崎 | 34位 | 485.0 |
| 山口 | 35位 | 813.0 | 滋賀 | 35位 | 471.5 |
| 山梨 | 36位 | 803.0 | 宮城 | 36位 | 466.0 |
| 新潟 | 37位 | 792.5 | 和歌山 | 36位 | 466.0 |
| 秋田 | 38位 | 787.5 | 鳥取 | 38位 | 459.5 |
| 宮崎 | 39位 | 780.5 | 秋田 | 39位 | 450.0 |
| 鳥取 | 40位 | 751.0 | 宮崎 | 40位 | 439.5 |
| 長崎 | 41位 | 725.0 | 新潟 | 41位 | 439.0 |
| 青森 | 42位 | 692.5 | 沖縄 | 42位 | 430.0 |
| 沖縄 | 43位 | 655.5 | 青森 | 43位 | 423.0 |
| 福島 | 44位 | 654.0 | 徳島 | 44位 | 415.5 |
| 徳島 | 45位 | 607.5 | 福島 | 45位 | 412.0 |
| 島根 | 46位 | 533.0 | 島根 | 46位 | 388.5 |
| 高知 | 47位 | 506.75 | 高知 | 47位 | 328.75 |

第72、73回大会 得点一覧比較

■: 種目なし □: 出場なし □数値: 獲得得点

| 競技名 | 平成29年 第72回(愛媛) | | | | | 平成30年 第73回(福井) | | | | |
|-------------|----------------|------|-------|-------|-------|----------------|------|-------|------|-------|
| | 少年 | | 成年 | | 合計 | 少年 | | 成年 | | 合計 |
| | 男 | 女 | 男 | 女 | | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| スケート(スピード) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| スケート(フィギュア) | — | — | — | — | 0.0 | — | — | — | — | 0.0 |
| アイスホッケー | — | — | — | — | 0.0 | — | — | — | — | 0.0 |
| スキー | 46.0 | 19.0 | 45.0 | 30.0 | 140.0 | 35.0 | 8.5 | 36.0 | 30.5 | 110.0 |
| 陸上競技 | 0.0 | 6.0 | 7.0 | 3.0 | 16.0 | 10.0 | 0.0 | 2.0 | 3.0 | 15.0 |
| 水泳(競泳) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | — | 0.0 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | — | 2.0 |
| 水泳(水球) | — | — | — | — | 0.0 | — | — | — | — | 0.0 |
| 水泳(OWS) | — | — | 0.0 | 0.0 | 0.0 | — | — | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 水泳(飛込) | 0.0 | — | — | — | 0.0 | — | — | — | — | 0.0 |
| 水泳(ATS) | — | — | — | — | 0.0 | — | — | — | — | 0.0 |
| サッカー | — | — | — | — | 0.0 | — | — | 0.0 | — | 0.0 |
| テニス | 0.0 | 0.0 | — | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | — | 0.0 | 0.0 |
| ボート | 15.0 | 12.0 | 0.0 | — | 27.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ホッケー | — | — | — | — | 0.0 | — | — | — | — | 0.0 |
| ボクシング | — | — | — | — | 0.0 | — | — | — | — | 0.0 |
| バレーボール | 0.0 | 0.0 | 0.0 | — | 0.0 | 7.5 | 0.0 | 0.0 | — | 7.5 |
| ビーチバレーボール | — | — | — | — | 0.0 | — | — | — | — | 0.0 |
| 体操(競技) | 0.0 | — | — | — | 0.0 | 0.0 | — | — | — | 0.0 |
| 体操(新体操) | — | 0.0 | — | — | 0.0 | — | 0.0 | — | — | 0.0 |
| トランポリン | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| バスケットボール | — | 0.0 | 40.0 | 40.0 | 80.0 | 0.0 | 12.5 | 40.0 | — | 52.5 |
| レスリング | 25.5 | — | 13.5 | 0.0 | 39.0 | 7.5 | — | 20.5 | 2.5 | 30.5 |
| セーリング | 0.0 | 0.0 | 1.0 | 0.0 | 1.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ウェイトリフティング | 22.0 | — | 16.0 | — | 38.0 | 0.0 | — | 15.0 | — | 15.0 |
| ハンドボール | — | — | — | — | 0.0 | — | — | — | — | 0.0 |
| 自転車 | 0.0 | — | 0.0 | — | 0.0 | 0.0 | — | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ソフトテニス | 0.0 | — | — | — | 0.0 | — | 0.0 | — | — | 0.0 |
| 卓球 | 0.0 | — | — | 0.0 | 0.0 | — | 0.0 | — | 0.0 | 0.0 |
| 軟式野球 | — | — | — | — | 0.0 | — | — | 0.0 | — | 0.0 |
| 相撲 | 0.0 | — | 0.0 | — | 0.0 | 0.0 | — | 0.0 | — | 0.0 |
| 馬術 | 0.0 | — | 2.0 | — | 2.0 | 3.0 | — | 0.0 | 0.0 | 3.0 |
| フェンシング | 9.0 | 15.0 | 18.0 | 21.0 | 63.0 | 6.0 | 0.0 | 24.0 | 0.0 | 30.0 |
| 柔道 | 0.0 | — | 0.0 | — | 0.0 | — | — | — | 0.0 | 0.0 |
| ソフトボール | — | — | — | — | 0.0 | — | — | — | — | 0.0 |
| バドミントン | 0.0 | — | — | 24.0 | 24.0 | — | — | 0.0 | 24.0 | 24.0 |
| 弓道 | — | 24.0 | 21.0 | — | 45.0 | 0.0 | — | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ライフル射撃 | 0.0 | 0.0 | 5.0 | 0.0 | 5.0 | 0.0 | — | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 剣道 | — | 0.0 | 0.0 | — | 0.0 | 0.0 | — | 0.0 | — | 0.0 |
| ラグビーフットボール | 12.0 | — | 0.0 | 15.0 | 27.0 | 0.0 | — | 30.0 | 0.0 | 30.0 |
| 山岳 | — | — | 0.0 | — | 0.0 | — | — | 0.0 | — | 0.0 |
| カヌー(SL・WW) | — | — | 36.0 | 17.0 | 53.0 | — | — | 25.0 | 14.0 | 39.0 |
| カヌー(SP) | 13.0 | — | 0.0 | 16.0 | 29.0 | 5.0 | — | — | 15.0 | 20.0 |
| アーチェリー | — | — | — | — | 0.0 | — | — | — | — | 0.0 |
| 空手道 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 銃剣道 | 0.0 | — | 0.0 | — | 0.0 | — | — | — | — | 0.0 |
| クレー射撃 | — | — | 0.0 | — | 0.0 | — | — | 9.0 | — | 9.0 |
| なぎなた | — | 0.0 | — | 0.0 | 0.0 | — | 0.0 | — | 0.0 | 0.0 |
| ボウリング | — | — | — | — | 0.0 | — | — | — | — | 0.0 |
| ゴルフ | — | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | — | — | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| トライアスロン | — | — | — | — | — | — | — | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 小計 | 142.5 | 76.0 | 204.5 | 166.0 | 589.0 | 76.0 | 21.0 | 201.5 | 89.0 | 387.5 |
| 得点割合(%) | 24.2 | 12.9 | 34.7 | 28.2 | 得点 | 19.6 | 5.4 | 52.0 | 23.0 | 得点 |
| 少年・成年別得点 | 218.5 | — | 370.5 | — | 獲得団体 | 97.0 | — | 290.5 | — | 獲得団体 |
| 同割合(%) | 37.1 | — | 62.9 | — | 14 | 25.0 | — | 75.0 | — | 13 |
| 男・女別得点 | 347.0 | — | 242.0 | — | — | 277.5 | — | 110.0 | — | — |
| 同割合(%) | 58.9 | — | 41.1 | — | — | 71.6 | — | 28.4 | — | — |
| 天皇杯得点・順位 | 989.0点 20位 | | | | | 787.5点 38位 | | | | |
| 皇后杯得点・順位 | 582.0点 20位 | | | | | 450.0点 39位 | | | | |





「福井国体を振り返って」

第73回国民体育大会は福井県で開催され、天皇皇后両陛下ご臨席を仰ぎ、9月29日に開会しました。式典中は舞台上の大会役員席にテントが張られるなど、台風24号の影響による厳しい悪天候下で行われました。

秋田県選手団も本県の誇りを胸に開会式に参加したものの、大雨と強風による寒さに震えながらの行進となりました。幸い本県選手団の中から体調を崩す人は出ませんでした。記憶に残る、忘れることのできない開会式になったと思います。

1月のスケート国体、2月のスキー国体の冬季競技で競技点として110点を獲得。福井国体の先行開催で、一足先に戦いを終えた競泳競技で中学生がバタフライ7位入賞、クレー競技トラップ団体で6位入賞と昨年入賞していない2競技が結果を残し、幸先の良いスタートとなりました。

さて主会期の競技が始まり、最初に吉報を届けてくれたのは、本会テクニカルアドバイザーが監督兼選手を務めるフェンシング成年男子チームです。愛媛国体では女子チームの陰に隠れていた男子チームでしたが、感慨深い団体優勝だったと思います。

連覇という快挙を成し遂げてくれたバスケットボール競技成年男子のJR東日本秋田チームとバドミントン競技成年女子の北都銀行チームの勇姿は県民を歓喜させたのではないのでしょうか。また本会テクニカルアドバイザーが自ら出場しあるいは強化等に関わってきたカヌー競技、ラグビーフットボール競技成年男子、ウエイトリフティング競技成年男子は優勝や複数入賞など、期待通りの活躍を見せてくれました。

一方で期待してきた少年種目が低迷し、特に団体種目での取りこぼしが福井国体における大きな目に見える反省点であります。結果として、愛媛国体で目前に迫った「天皇杯得点1000点」という本県の目標を大きく下回る事となってしまいました。また、もう一步のところまで入賞を逃す種目についての報告を聞くにつれ、本県選手のメンタルタフネスが非常に気になった大会でもありました。

終わりに、福井国体が閉会し私は、ジュニアの育成強化等のあり方について、これまでの経緯や諸事情といった条件を一旦忘れて、関係者が一堂に介し白紙の状態を検討すべき時期に来ているという思いを持ちました。

ジュニアの育成強化の拠点となる「高等学校強化拠点校制度」は創設後8年余が経過しており、この間本県ジュニア層の競技力向上に大きな役割を担ってきたことは私も理解しております。

一方で競技のすそ野拡大や育成強化方策を考えると、あるいは「スポーツ王国あきたの復活」を考えると、このような「選択と集中」方式がいいのか、例えば今年金農野球部を夏の甲子園準優勝に導いた「高校野球強化プロジェクト」のような学校単位ではなく競技単位で底上げを図るような方式がいいのか、深く考えさせられる福井国体となりました。

公益財団法人秋田県体育協会
専務理事 齊藤 譲
【新潟スキー国体、福井国体 副団長】





スポーツ能力測定会&スポーツ体験会

自分自身の運動能力を理解し、本当に自分に合ったスポーツを知る!!

CONVERSION PROJECT

自分への挑戦!! そして発見!!

己の力を知っているか? 本当の力を知りたい挑戦者集まれ!!!

競技経験の有無などに一切かわらず、中学1~3年生を対象としたトライアル（適性を判断するための測定会）を平成30年10月20日（土）、秋田市の県立武道館にて実施しました。

県内各地から参加した生徒たちは、最新の測定機器を用いて様々な能力測定を行い、測定後にはその場で測定結果の分析やトレーニングに関するフィードバックも受けました。

さらに、当日は12の競技団体による体験ブースを設け、日頃触ることができない競技道具などに実際に触れ、本番さながらの競技体験をすることができ、初めて目にする競技などにも生徒・保護者は興味津々でした。

なお、今回参加してみて引き続きその競技を体験したいという生徒には、本会ジュニア育成アドバイザーが競技団体主催で後日開催する体験会等への橋渡しもしており、今年も、早速いくつかの競技へ希望者からの連絡を取り次ぐ等のサポートをしています。

昨年実施した際には、中学3年生を対象に行い全県から73名が参加。そのうち、高校への進学をきっかけに競技転向した10数名の中には、この事業へ参加したことも競技選択の参考になったというコメントが寄せられています。

『自身の能力を知ってさらに競技力を伸ばすもよし、自分の新たな可能性を見つけるためのヒントを探すもよし』新たなチャレンジから大きな可能性が開ける。この事業は、その第一歩となるそんな機会となっています。

また、それと同時に本県スポーツの底辺拡充の一端を担うため、競技団体と一体となりスポーツへの入り口の整備を着実に進めていくことも求められており、この取り組みをさらに充実させることがその解決策の一つとなることと確信しています。

当日の流れ



- 具体的な測定内容
 - 10m スプリント
個々の走る能力の「特徴」を分析。
 - 俊敏性測定
方向転換能力を測定し、直線の走力との比較から敏捷性を評価。
 - ジャンプ力、バネ力
「高く跳ぶジャンプ力」と「素早く跳ねるバネ力」の2種類のジャンプテストを行い、高く遠く跳ぶためのジャンプの質を測る。
 - 反応ジャンプ測定
目から得た情報に対して、ジャンプやスプリント等素早くリアクションするまでのタイムを測定・評価。
- 分析、フィードバック
 - 長所と短所を明確にし、自分に合ったトレーニング法などのアドバイスを行う

フィードバック



他にもアーチェリー・相撲・水球・バレーボール・飛込・空手道の体験ブースを用意しました。



期待のジュニアアスリート VOL.2

10月に行われた福井国体に出場した3名の中学生選手に国体で感じたことや今後の目標を聞きました。



三浦 輝帆 選手
(城東中学校3年：ゴルフ)



鏑野目 遼弥 選手
(山王中学校3年：競泳)



高橋 紬夢 選手
(城南中学校3年：卓球)

Q. 競技との出会い・きっかけは？

- 三 浦：私が秋田に転校してきたのがきっかけです。引っ越し先に住んでいた祖父の影響と、自分が何かスポーツを始めたいと思っていたタイミングが合ってゴルフを始めました。
- 鏑野目：僕は生まれつき股関節が弱く、「少しずつ水泳で鍛えろ」といい」と医師からアドバイスがあり、それがきっかけで3歳から水泳を習い始めました。
- 高 橋：私は知り合いが始めたのをきっかけに小1から始めました。小2の途中までは卓球経験者の父と練習していましたが、以後卓球会館に入って本格的に始めました。

Q. 競技の魅力・醍醐味は？

- 三 浦：ゴルフは紳士的なスポーツで、自然と触れあうことが出来るのが魅力だと思います。また、長時間プレーするため、集中力がつくなどメリットがあります。
- 鏑野目：水泳は全身運動で身体が引き締まり、健康には最適だと思います。また、大会を通して秋田県だけでなく、東北・全国に人間関係が広がります。
- 高 橋：卓球は頭をフルに使いながら身体を動かすところが醍醐味です。「チェスをしながら100m走をするようなスポーツ」と言われていて、技術力だけでは勝てないスポーツです。だからこそやりがいも感じるとともに、試合で勝ったときの達成感は大きいです。

Q. あなたにとって、福井国体とは？

- 三 浦：憧れの場所。全国から強豪選手が集まる貴重な場所でした。
- 鏑野目：慣れない事も多かったが、先輩達と共に行動できてとても勉強になりました。また、オリンピック選手を間近で見る事ができて実力の違いがよく分かりました。
- 高 橋：人生で何度も出られる大会ではないので、良い経験になりました。団体戦にしかない雰囲気の中で、自分のプレーができたのは自信になりました。また、技術以外で大切なメンタルや体調管理のことも学べて良かったです。来年も出場して優勝したいです！

Q. 今後の目標は？

- 三 浦：もう一度、国体に出ることです。そのために自分の欠点を見つめ直し、改善することでショットの正確性を出せるようにしたいと思います。自分らしいプレーをしていきたいです。
- 鏑野目：僕はまだ成長過程だと思うので、活躍するまで必死にがんばろうと思います！
- 高 橋：今年度の集大成として1月におこなわれる全日本選手権大会のジュニアの部でベスト16に入る事を目標にしています、その達成に向けて頑張ります！



平成30年度秋田県中学生強化選手育成事業 中・高連携強化プロジェクト

第1弾 パフォーマンステスト～平成30年11月3日（土）開催

国内外で活躍できるトップアスリートを育成するため、科学的根拠に基づいた運動能力テスト「パフォーマンステスト」を実施し、専門家によるフィードバックを受けることで、選手個々に課題を自覚させ自発的な取り組みを促しました。今年度は、秋田県中学生強化選手75名、秋田県高等学校強化拠点校選手73名、総勢148名が参加する活気溢れる研修となりました。



立位体前屈



20 mスプリント



R Jインデックス



開脚テスト



立ち幅跳び



20 mシャトルラン

午前には6種類の運動能力テストをおこない、午後は実際に身体を動かしながら沼田幹雄トレーナー（日本スポーツ振興センター）からムーブメントトレーニングを中心に、力の効果的な出し方や体幹の強化について指導していただきました。



沼田トレーナーからは、「中学生はトレーニングの中に他競技の動きを入れて刺激を与えると、高校生になってから生きてくる。陸上競技や武道の選手もボールを使ったトレーニングを入れると良い。球技の選手の他競技のボールを使ってみると高校生になってパフォーマンスに良い影響を与える。高校生は段々体ができてくる時期なので、筋肉が固くならないように、今以上に柔軟に時間をとっていく必要がある。」とのアドバイスを頂きました。

参加した選手からは「自分に足りない能力がわかり、その改善方法を知る事が出来て良かった」、「沼田トレーナーのトレーニング方法はわかりやすくして理解しやすかった。明日からさっそく継続していきたい」などと、喜びの声が多くあがりました。

また、今研修は、秋田県中学生強化選手と秋田県高等学校強化拠点校選手が交流する貴重な機会でもあり、中学生は高校生の強靱な体と高い身体能力、挨拶や礼儀、コミュニケーション能力などを多く学ぶことが出来ました。



～選手及び指導者における、 カテゴリーの枠を越えた連携とブラッシュアップ～

第2弾 指導者研修～平成30年11月17日（土）開催

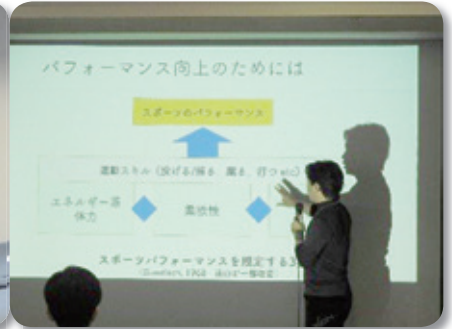
本県の競技力向上を目指した中・高一貫指導体制を発展させるため、指導者間におけるカテゴリーの枠を越えた連携と指導者の技術・情報等を共有し、各競技団体の競技力向上につなげました。今年度は、全県から16競技30名の指導者が集まり、他競技の指導者と交流を図りながら課題や現状を話し合い、中・高一貫指導体制について確認しあいました。



熱心に聞き入る参加者



遠山 健太 講師



測定の意義に立ち返って



思わず写真に収める参加者



ポイントを確認しながらの実践



あともう少し!!

遠山健太トレーナー（株式会社ウィングート）からは先日のパフォーマンステストの分析とアスリートとしての指標を示していただきました。選手のパフォーマンスが上がらない原因を探るためには、定期的な測定の中にヒントが隠されているケースがあるとのことでした。また、各選手の実年齢ではなく生物学的年齢に合わせたトレーニングの重要性を学ぶ機会となりました。



佐久間俊和 講師



現状の確認と情報交換も



熱い議論が交わされました

午後の部は、ディスカッション形式で佐久間俊和講師（株式会社マネジメント開発研究所）に「理想のコーチング像とは」をテーマに講義していただきました。昨今のスポーツ界では様々なハラスメントやトラブルが起きている中、指導者が自らのコーチングスタンスを確認する重要な場となりました。

ディスカッションでは、それぞれが抱える現状や課題を生々の声で議論し合い、今後のジュニア育成の手立てへとつなげました。佐久間講師からは、指導者としての活動を労いながらも「選手へのリーダーシップの取り方、対話での信頼関係の構築、自らの人間観を磨くことを忘れず日々の指導にあたってほしい」とエールをいただき、研修の幕を閉じました。



高校スポーツ。いざ、冬の陣

駅伝競走 (男子) 秋田工業高校 (6年連続24回目) 主将 竹村 拓真



陸上競技部員の力を結集し、今年も全国高校駅伝競走大会に出場できることを嬉しく思います。京都の都大路で全国の強豪校と互角の襷リレーをするために我々が身に付けなければならないことが2つあります。「自分に自信を持つこと」と「仲間との信頼」です。

速くなるためには練習の積み重ねが大切です。しかし、レースの苦しい場面では「日常の自分」が出ます。だからこそ、日々の生活で当たり前なことを当たり前に行う必要があります。日常生活の上に練習があり、練習の積み重ねの延長線上に試合があります。このことを再認識し、部員個々が自信を育てていきます。また、襷は絆です。私たちは合宿所で生活を共にしていますが、それだけで信頼は生まれません。互いに指摘し合い、コミュニケーションを深めることで自分たちが繋ぐ襷に信頼が宿る取組をします。

最後になります。これまで支えてくださった方々へ結果で感謝の気持ちを伝えます。



駅伝競走 (女子) 大曲高校 (7年ぶり6回目) 主将 斎藤 菜摘



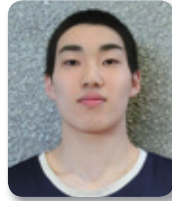
大曲高等学校創立110周年という節目の年に、7年ぶり6回目の師走の都大路を走れることを大変嬉しく思います。この結果が残せたのは、沢山の皆様のご支援、ご声援があったからです。心から感謝します。

今年のチームは、選手が7人と人数が少なくとても厳しい状況でした。その分、ひとりひとりが危機感を持って練習を積み重ねてきました。秋田県予選は突破したものの、全国の強豪校と比べるとレベルは劣っています。これからは、「気づく」をテーマに、練習だけでなく学校生活や私生活にも更に力を入れて、少しでもレベルアップができるように取り組んでいきたいと思っています。

秋田県代表として、チャレンジ精神で戦ってきます。これまで支えてくださった方々への感謝の気持ちを走りでも表現します。



バスケットボール (男子) 能代工業高校 (3年ぶり47回目) 主将 遠田 貴大



私達、能代工業バスケットボール部は、秋田県予選を勝ち抜き、3年ぶりに全国高校選手権大会への切符を勝ち取ることができました。

私達は一昨年、去年と冬の全国大会に出ることができませんでした。去年、今年は全国高校総体に出場し、今年は3年ぶりの全国大会での勝利を取ることができ、ベスト16まで進出することができました。しかし、私達の目標は「日本一」なので、ベスト16という満足のいかない結果で終わってしまい悔しい思いをして秋田に帰ってきました。全国高校選手権大会では、ベスト16の壁を破り優勝を目指していきたいと思っています。また、私達が全国大会に出場できるのは、監督、コーチの方々、能代市民やさまざまな方々の支援のおかげだと思っています。私達は、武蔵野の森総合スポーツエリアで自分達の力を十分に発揮し、「日本一」を獲りたいと思っています。これからも能代工業バスケットボール部の応援よろしくをお願いします。



バスケットボール (女子) 湯沢翔北高校 (10年連続18回目) 主将 安藤 千遥



今年もウインターカップに出場できることに素直に喜びを感じています。私にとっては1年生から3年連続出場、今年度はインターハイ、国体に続き3回目の全国大会出場になります。最近の全国大会の試合では、戦術面での手応えがありましたが、体力面や心理面では課題を感じました。体力面では身体接触

に負けずにプレーをやり切る力強さ、心理面では緊迫した場面での強気の状況打開力が不足していました。私たちは個人個人がこの課題を自覚して自分に厳しくトレーニングを重ね、体力的にも心理的にもタフな選手になることを目指しています。

今年会場が東京都調布市の武蔵野の森総合スポーツプラザになります。いつも会場で声援を送ってくださる県人会や同窓会の皆様をはじめ、応援してくださる方々の心が熱くなるようなプレーができれば勝ち上がっていきなす。何より私たち選手自身が熱く燃えて「翔北のバスケットボール」をやり切りたいと思っています。





| | | | |
|----------------------|------------|-----|-------------------------|
| ●全国高等学校駅伝競走大会 | 12/23 | 京都府 | 京都市西京極総合運動公園陸上競技場 |
| ●全国高等学校バスケットボール選手権大会 | 12/23～29 | 東京都 | 武蔵野の森総合スポーツプラザ |
| ●全国高等学校ラグビーフットボール大会 | 12/27～1/7 | 大阪府 | 近鉄花園ラグビー場 |
| ●全国高校サッカー選手権大会 | 12/30～1/14 | 東京都 | 駒沢陸上競技場ほか(神奈川県・埼玉県・千葉県) |
| ●全日本バレーボール高等学校選手権大会 | 1/5～13 | 東京都 | 東京体育館 |

ラグビーフットボール
秋田中央高校 (3年ぶり11回目)
 主将 吉田 優馬

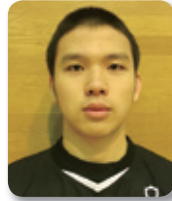


先日行われた第98回全国高等学校ラグビーフットボール大会秋田県予選大会で優勝し、3年ぶり11回目の花園出場の切符をつかむことができました。これも、全校応援や本校ラグビー部に関わってくださっている沢山の方々の応援があったからこそだと感謝しております。

我がラグビー部は、マネージャーも含め部員全員が熱い気持ちをもった仲間たちです。古谷監督の下でこの仲間達と引き続きラグビーをできることや聖地花園と一緒にプレーができることをとてもうれしく思います。監督は常に「何事も準備が大事だ。」と指導してくれます。全国大会まで残り僅かの準備期間ではありますが、仲間と共にもう一度体を鍛え直し、練習に励み、ベストの準備をして私達の目標である日本一を目指していきたいです。そして秋田代表の名に恥じぬよう、秋田県予選大会に参加したすべてのチームの想いを背負い頑張ってきます。応援よろしくお願ひします。



バレーボール (男子)
雄物川高校 (24年連続24回目)
 主将 栗田 陸



今年のチームは「相手にボールの拾い負けをしない」をモットーに毎日厳しい練習に励んできました。特に今年のチームは例年に比べて身長が低く、高さのあるスパイクやブロックがあるわけではないので、練習時間の半分をレシーブ練習にあて、重点的に取り組んできました。インターハイや国体などの試合を重ねるにつれて、粘り強いレシーブが出来るようになってきたので、春高でもこれまでの練習の成果を十分に発揮出来るように頑張りたいと思いました。

私たち3年生にとって「全国ベスト4」というチーム目標を達成できるチャンスは、春高しかありません。目標を達成するためには試合に出る選手、出ない選手が一致団結し「チームのために」ということを念頭に残り少ない期間ですが意識を高くもって練習に取り組んでいきたいと思っています。

これまで支えてくださった地域の方々や後援会の方々、学校の先生や保護者に恩返し出来るように、1月に開催される春高バレーでは必ず良い結果を残し秋田に帰ってきます。



サッカー
秋田商業高校 (4年連続44回目)
 主将 鈴木 宝



私達秋田商業サッカー部は新チーム発足以来、全国高校サッカー選手権大会で勝利するという目標のもと、日々のトレーニングに取り組んできました。県大会を勝ちきり、私達は今、全国の舞台にリベンジするチャンスを掴み取ると同時に、目標を果たす為に更なるレベルアップが必要であると感じました。

全国高校サッカー選手権大会に向けて、個々の技術やフィジカル面のレベルアップとして、パススピードや精度の向上、走力のアップなどを図っていくことはもちろん、チームとしては守備力を強化していきたいと思っています。1つ1つの事を全て徹底させ、日々のトレーニングでも目的を持った行動を継続して取り組んでいきたいです。

また、チームの土台となる「気持ち」を1つにして、部員46名全員が同じ目標に向かい、それを達成できるように、これから始まる全国大会に向けて充実した時間を積み重ねて、準備していきたいと思っています。



バレーボール (女子)
秋田北高校 (4年ぶり3回目)
 主将 煤賀 愛純



4年ぶりに全日本バレーボール高校選手権大会への切符を手にすることができました。出場できなかった三年間、先輩方も含めて悔しい思いをしてきたので出場を決めたときは嬉しい気持ちと同時にやっとスタートラインに立てたという感情が込み上げてきました。

インターハイを終えて、粘りのあるレシーブのつなぎを強化してきました。予選大会でも強化してきた場面が多く見られ、良い流れに持っていくことができました。しかし、全国大会では更なる強化が必要です。攻撃力では点数の取り方を工夫し、決定力を上げていかなければならないと思います。日々の練習に課題を持って臨みたいと思います。

目標としていた春高の舞台です。インターハイで感じたことを生かしながら、相手に対応して1点を取りにいききたいと思います。また、日頃から支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに、部員全員が上を見ながら、「全員バレー」で戦ってきます。





「バドミントン・ナガマツペア」と「金足農高野球部」へ 平成30年度秋田県スポーツ賞「特別賞」を授与

平成30年11月26日（月）秋田市のイヤタカにおいて、平成30年度秋田県スポーツ賞「特別賞」授与式が国体報告会に先立って行われ、競技団体関係者ら約100人が出席しました。

秋田県スポーツ賞は、秋田県の体育・スポーツの振興に寄与し、その功績が顕著なものに対して、公益財団法人秋田県体育協会がその栄誉をたたえて顕彰するものです。

◆特別栄冠賞◆



永原和可那 選手



松本 麻佑 選手

北都銀行女子バドミントン部の永原和可那選手、松本麻佑選手は、平成30年7月30日（月）から8月5日（日）に中国の南京市で開催された第24回世界バドミントン選手権大会女子ダブルスにおいて、初出場ながら初優勝し、世界の頂点に立ちました。

同種目での日本勢の優勝は41年ぶりの快挙であり、この偉業は県民に明るい希望と大きな感動をもたらしました。

この活躍に対して、秋田県スポーツ賞「特別栄冠賞」を授与しました。

◆特別賞◆

金足農高野球部は、平成30年8月5日（日）から21日（火）に兵庫県阪神甲子園球場で開催された第100回全国高等学校野球選手権記念大会において、県勢として103年ぶりの決勝進出を果たし、東北勢・秋田県勢初の優勝こそ叶わなかったものの、見事に準優勝に輝きました。

試合を重ねるごと勢いを増し、私立の強豪校を相手に次々と劇的な勝利を収め、快進撃を続けました。直向きで清々しい戦いは、県民はもとより全国の多くの人々に大きな感動を与えました。

この活躍に対して、秋田県スポーツ賞「特別賞」を授与しました。



授与式

左から久米部長、中泉監督、菅原副主将

◆県民栄誉章◆

平成30年10月2日（火）に北都銀行女子バドミントン部の永原和可那選手、松本麻佑選手へ、また、平成30年11月28日（水）には金足農高野球部へ「スポーツ分野での業績が顕著であるとともに、広く県民に敬愛され、社会に明るい希望を与え、秋田県の名を高めた」として県民栄誉章が授与されました。



永原・松本ペア



金足農高野球部



金足農業高校野球部 県勢として103年ぶりの準優勝

～ 第100回全国高等学校野球選手権記念大会 ～

金足農業高校野球部（以下、金足農）は、第100回全国高等学校野球選手権記念大会において、見事に準優勝に輝きました。人口減少や少子高齢化社会など、本県を取り巻く環境は厳しさを増している中であって、金足農の躍進は大きな明るいニュースであり、県内はもとより全国で金足農の話題にあふれ、野球に関心の薄かった人達も巻き込んで大いに盛り上がりました。

選手全員が地元出身であることや公立の農業高校であることも全国から注目され、甲子園の決勝こそ途中で降板したものの、それまで県大会から吉田輝星投手が1人で投げ抜き（93イニング1,517球）先発メンバー9人で戦い抜きました。

伝統の「金農野球」は、バントで確実に得点圏に走者を送り、本塁を狙い、チーム一丸となって最後まで諦めずに粘り強く戦うスタイルです。このスタイルこそが、金足農が「雑草軍団」と呼ばれる所以であり、全国のファンの心を捉えたのは、その諦めない姿やひたむきさ、何事にも全力で向かう姿勢であったに違いありません。

県内のみならず、全国にも多くの金足農ファンを生み出し、金農フィーバーを巻き起こした活躍は、公立高校や農業高校、東北地区の誇りです。

【甲子園大会のスコア】

| | | | |
|----------------|-----|--------|------------|
| 1 回 戦 (8 / 8) | 金足農 | 5 - 1 | 鹿児島実 (鹿児島) |
| 2 回 戦 (8 / 14) | 金足農 | 6 - 3 | 大垣日大高 (岐阜) |
| 3 回 戦 (8 / 17) | 金足農 | 5 - 4 | 横浜 (神奈川) |
| 準々決勝 (8 / 18) | 金足農 | 3 - 2 | 近江 (滋賀) |
| 準決勝 (8 / 20) | 金足農 | 2 - 1 | 日大三 (西東京) |
| 決勝 (8 / 21) | 金足農 | 2 - 13 | 大阪桐蔭 (北大阪) |



佐々木大夢選手（元主将）、吉田輝星選手、船木弦選手（新主将）にインタビューしました!!!



佐々木大夢 選手
（元主将）

◎予選から通じて一番印象に残っている試合はどの試合ですか？

佐々木：秋田大会決勝戦（対明桜）です。昨年の決勝と同一カードとなり、第1シードというプレッシャーの中、チームだけでなく応援して下さいました方々全員で手にした勝利でした。

吉 田：甲子園の3回戦（横浜戦）です。

船 木：自分が一年生だった時の秋田大会の決勝の相手が同じ明桜。昨年敗れた日からずっとこの日までこの試合を忘れずに3年生と練習してきました。厳しい練習を3年生と耐えてきて、昨年の悔しさや雪辱を果たすことができよかったです。

◎金足農業高校としては11年ぶり6回目の甲子園。甲子園はどんな場所でしたか？

佐々木：のびのびとプレーが出来、野球の楽しさをプレーしている選手だけではなく、観客の皆さんにも教えてくれる場所でした。

吉 田：自分を成長させてくれる場所。そして初めて野球、試合を楽しめた場所でした。

船 木：すごく特別な場所であり、もう一度ここに戻って野球がしたいと考えさせてくれる場所です。

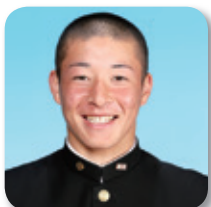
◎後輩にメッセージをください。

佐々木：応援されるチームになってほしい。プレッシャーはあると思うが、自分たちの力に変えて勝利につなげてもらいたい。

吉 田：自分たちが準優勝したのは応援のおかげ。感謝の気持ちと目標を達成することが一番大事。

◎新チームの抱負を聞かせてください。

船 木：一人ひとりが自覚を持ち、誰かに任せるのではなく、全員が率先して前に出てプレーできるようなチームを全員で作っていきます。



吉田 輝星 選手



船木 弦 選手
（新主将）





トップアスリートの雇用企業に対して感謝状を贈呈しました

本会では、平成28年7月より、厚生労働大臣から認可を受け、「秋田トップアスリート無料職業紹介所」を開設し、秋田に就職し、競技活動を継続できるようにアスリートと企業のマッチングサポート事業を実施しており、これまで10人のアスリートと9社とのマッチングが成立しました。

このたび、平成30年3月末までに採用していただいた企業に対して、「アスリートの雇用に深い理解を示され、本県スポーツの競技力向上と普及・振興に多大なる貢献をされた」として、2018秋田トップアスリート就職説明会（平成30年11月28日開催）にて感謝状を贈呈しました。



辻副会長のあいさつ



(株)秋田病理組織細胞診研究センター
阿部社長



A L S O K 秋田(株)
辻本社長

★感謝状を贈呈した企業★

- 株式会社秋田病理組織細胞診研究センター（本社：秋田市）
- A L S O K 秋田株式会社（本社：秋田市）
- 有限会社鶴の湯温泉（本社：仙北市）
- 田沢湖高原リフト株式会社（本社：仙北市）
- 秋田ノーザンハピネッツ株式会社（本社：秋田市）
- シード株式会社（本社：北秋田市）



感謝状

平成30年度 公益財団法人日本スポーツ協会 公認スポーツ指導者等表彰受賞者

公益財団法人日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者として、資格取得後15年以上にわたり、スポーツの指導育成及び組織化等に尽力し、顕著な功績が認められるとして、本会の推薦により次の4名が表彰を受けました。

表彰式は、平成30年12月8日（土）にTKPガーデンシティ品川で行われました。

- 今野 啓子（なぎなた上級指導員）
- 高橋 守（山岳上級指導員）
- 佐藤 貢（レスリング指導員）
- 畠山 次男（銃剣道上級指導員）



秋田県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

～全県交流大会・地区交流会～

9月9日（日）開催の全県グラウンドゴルフ交流大会〔主管クラブ・山本地区スポーツクラブ〕（三種町惣三郎沼公園特設コース）《本誌190号に記事掲載》から始まった全県交流大会・地区交流会の今年度予定していた5事業も、11月4日（日）開催の県北地区クラブ交流会で、予定どおり今年度分を終えました。特に10月28日（日）開催の全県8人制ビニールバレーボール交流大会は由利本荘市に完成した新体育館で、素晴らしい設備環境のもと交流大会が運営されました。参加者の皆様、大変喜んでプレーを楽しみました。5事業の交流を通じて情報交換や総合型クラブ間の活性化を図ることができました。

●9月30日（日）県央地区クラブ交流会

〔主管クラブ〕 男鹿市総合型地域スポーツクラブ（男鹿市総合体育館）
ユニバーサルホッケー・オーバルボール・デックスティックゲーム・チェアエクスサイズスクエアステップの4種目交流
参加者94名

●10月8日（月・祝日）県南地区クラブ交流会

〔主管クラブ〕 大曲スポーツクラブ（大曲体育館）
吹き矢・ラージボール卓球・スカットボール・オーバルボールの4種目交流
参加者50名

●10月28日（日）全県8人制ビニールバレーボール交流大会

〔主管クラブ〕 尾崎スポーツクラブ（由利本荘市・ナイスアリーナ）
参加チーム数；（女子の部）6チーム、（男女混合の部）10チーム、計16チーム
参加者 約200名

●11月4日（日）県北地区クラブ交流会

〔主管クラブ〕 あいあいクラブたかのす（鷹巣体育館）
8人制ビニールバレーボール
参加チーム数；（女子の部）4チーム、（男子の部）4チーム、計8チーム
参加者 約100名



男鹿市総合体育館(9/30)



大曲体育館(10/8)



由利本荘市・ナイスアリーナ(10/28)



鷹巣体育館(11/4)

チャリティゴルフコンペを開催し、オリンピック・パラリンピック候補選手に支援します

11月10日（土）県体協主催「チャリティゴルフコンペ」を、ノースハンプトンゴルフ倶楽部にて開催しました。平成24年度から通算8回目の今回は、31名の方にご参加いただき、総額62千円の寄付金を頂戴しました。開催にあたり、多数の企業等からコンペ賞品として協賛品をご提供いただほか、ノースハンプトンゴルフ倶楽部からは様々なご配慮をいただきました。

寄付金は、オリンピック・パラリンピック候補選手支援募金として活用させていただきます。参加者の皆様、協賛各社はじめご支援くださった皆様に感謝申し上げます。

〔協賛企業〕

- 秋田いすゞ自動車㈱
- ㈱秋田中央機工
- ㈱秋田ケーブルテレビ
- 秋田テレビ㈱
- ㈱秋田魁新報社
- ㈸佐藤養助商店
- 秋田ゼロックス㈱
- みちのくコカ・コーラボトリング㈱秋田営業部



県内スポーツの主なできごと

9月

- 4日 レスリングの世界大学選手権（～9日）で男子フリースタイル65キロ級の米澤圭選手（秋田商業高校出身）が優勝
- 23日 バドミントンの中国オープン女子ダブルスで永原和可那、松本麻佑組（北都銀行）が準優勝
- 27日 サッカーJ3のブラウブリッツ秋田が来季のJ2クラブライセンスを取得

10月

- 2日 バドミントン女子ダブルスの永原和可那選手、松本麻佑選手（北都銀行）が県民栄誉章受章
- 20日 秋田県タレント発掘合同トライアル事業 スポーツ能力測定会&スポーツ体験会を開催
- 21日 バドミントンのデンマーク・オープン女子ダブルスで米元小春、田中志穂組（北都銀行）が準優勝
- 28日 バドミントンのフランス・オープン女子ダブルスで永原和可那、松本麻佑組（北都銀行）が優勝

11月

- 3日 中学生強化選手育成事業 中・高連携強化プロジェクト「パフォーマンステスト」開催
- 11日 バドミントンの福州中国オープン女子ダブルスで永原和可那、松本麻佑組（北都銀行）が準優勝
- 14日 プロ野球千葉ロッテマリーンズが明桜高校の山口航輝選手と契約
- 17日 中学生強化選手育成事業 中・高連携強化プロジェクト「指導者研修」開催
- 23日 プロ野球日本ハムファイターズが金足農業高校の吉田輝星選手を含む新入団選手を発表
- 24日 秋田県競技力向上連絡協議会・第15期中学生強化選手指定証交付式
- 26日 秋田県スポーツ賞「特別賞」授与式で、永原和可那選手、松本麻佑選手（北都銀行）に特別栄冠賞を、金足農業高校野球部に特別賞を授与
- 28日 金足農業高校野球部が県民栄誉章受章
秋田アスリート就職説明会・感謝状贈呈式を開催

秋田県体育協会へのご寄付のお願い

本県スポーツの振興と競技力の向上を図り、さまざまな公益目的事業を実施する経費の一部に充てるため、県民及び県内外の企業、団体へご寄付をお願いしております。

公益財団法人への寄付は、所得税法、法人税法による寄付金特別控除、損金算入（法人の場合）などの特例対象となります。スポーツ立県を支え、実現していくために、多くの皆様のご理解、ご協力をお願いします。

平成30年10月1日から平成30年11月30日までの間、寄付申込みをいただいた法人・団体・個人を御紹介します。（敬称は略させていただきます。）

【法人・団体】 厚生ビル管理株式会社 株式会社光風舎 【個人】 殿村碩太郎

会議録（抄）

11月13日 第4回強化委員会

- 第73回国民体育大会について
 - ①成績確認・意見交換
 - ②競技団体コメント

- ③国民体育大会における本県競技力調査・分析について
- ④第73回国民体育大会秋田県選手団報告会について
- ・秋田県中学生強化選手および高等学校強化拠点校に関する事業等について

平成30年度 関係団体創立記念行事一覧

関係団体の創立記念行事が次のとおり開催されました。誠におめでとうございます。
今後の益々のご発展とご活躍を祈念いたします。

| | | |
|-----------------------|--------|------------|
| 秋田県スキー連盟創立90周年記念式典 | 10月27日 | 秋田ビューホテル |
| 秋田県卓球協会創立70周年記念式典 | 11月3日 | 秋田キャッスルホテル |
| 秋田県フェンシング協会創立60周年記念事業 | 11月10日 | 秋田ビューホテル |
| 秋田県高等学校体育連盟創立70周年記念式典 | 12月7日 | 秋田ビューホテル |

編集後記

福井しあわせ元気国体における本県選手団は、天皇杯38位・皇后杯39位と、昨年の成績を上回ることは出来ませんが、今後も、更なる向上をめざして各種強化事業を推進していきます。一層のご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

本誌の発行にあたり、ご多用中の折、取材や原稿執筆などにご協力くださいました皆様、写真を提供してくださいました秋田魁新報社様、ご協力ありがとうございました。（佐藤事務局長）

本格派コーヒー・自動販売機サービス

M.M.C.[®]

三本コーヒー株式会社
秋田支店

〒010-0916 秋田県秋田市泉北3-3-35
TEL 018 (865) 5461 FAX 018 (888) 1721

駄菓子・クジ・縁日グッズ
お菓子の袋詰

しもむら



☎832-6766 駄菓子のしもむら 検索

資源を活かして地域社会に貢献

砕石・生コン製造販売業

堀江建材株式会社

代表取締役 鈴木 泚 士

秋田県大館市中道三丁目1番50号
TEL 0186-49-0280
FAX 0186-43-0002

株式会社松 田

地域の発展とともに
株式会社湯沢生コン
松田グループ 株式会社丸栄建設
株式会社出羽運輸

株式会社エイコウ物産

本 社 / 湯沢市字鶴館 39-4 TEL.0183-73-0188

事業内容

会社財務・決算・記帳代行・税務相談・経営助言・
相続・贈与・事業承継対策・医療法人経営指導税務対策

税理士法人
秋田税経プランニング

税理士 高 橋 真 一
税理士 横 山 富 夫

本 店 / 秋田市南通亀の町4番9号 Tel.018-833-4022
横山会計 / 秋田市川尻若葉町4番37号 Tel.018-862-6388



美人を育てる秋田米



粒が大きく、あきたこまちと比べてややすっきりとした味で、旨みとコクと甘みを感じられます。

香りが良く、光沢と適度な粘りがあり、味に厚みとコクがあります。

農家が手間暇をかけてつくった環境にやさしいお米です。



「あきたecoらいす」とは

秋田県が示している一般的な栽培方法より、使用農薬成分回数を半以下に抑えて栽培されたお米です。

JAグループ秋田・JA全農あきた



輝きを 汗に 瞳に このまちに
能代山本スポーツリゾートセンター **アリナス**

スポーツ 合宿 研修 ... に

アリーナ 宿 泊 室
トレーニングルーム ス ト ラ
温水プール 温 泉 浴 場
研修室 (サウナ有)
ミーティングルーム



〒016-0014 秋田県能代市落合字下台2番地1
JR能代駅から車で10分
TEL 0185(54)9200 FAX 0185(54)2322
<http://www.noshiroyamamotokouikiken.jp/kouryuu/arinasu/list.html>



仲間と一緒に
楽しく

小さな掛金、大きな補償

スポーツ安全保険[®]


4名以上の団体・グループで
ご加入ください。



傷害保険



賠償責任保険



突然死葬祭費用保険

対象となる事故

団体での活動中の事故／往復中の事故

保険期間

平成30年4月1日午前0時から平成31年3月31日午後12時まで(申込受付は平成30年3月から)

掛金

掛金(1人年額800円~1,850円)は、活動内容・年齢によってご選択いただく加入区分ごとに異なります。ただし、危険度の高いスポーツを補償するD区分は11,000円

補償内容

補償内容は、加入区分によって異なります。詳しくは、ホームページなどをご覧ください。



公益財団法人 **スポーツ安全協会** 秋田県支部

(公財) 秋田県体育協会内)

〒010-0974 秋田市八橋運動公園1-5

秋田県スポーツ科学センター内

TEL **018-883-0360**

電話受付時間 午前8時30分~午後5時(土、日、祝日を除く。)



保険の詳細内容、資料の請求は、
ホームページをご覧ください。

※インターネットからも加入受付をおこなっております。

スポーツ安全保険

検索

〈引受幹事保険会社〉

東京海上日動火災保険株式会社
担当課:公務第2部 文教公室
TEL 03-3515-4346 (平日9:00~17:00)

〈共同引受保険会社(平成30年4月予定)〉

あいおいニッセイ同和 共栄火災
損保ジャパン日本興亜 大同火災 東京海上日動
日新火災 三井住友海上 AIG損保

この広告はスポーツ安全保険(スポーツ安全保険特約書に基づく傷害保険(スポーツ安全協会傷害保険特約・スポーツ安全協会傷害保険特約(学校管理下外担保)・突然死葬祭費用担保特約付帯普通傷害保険)、賠償責任保険(スポーツ安全協会賠償責任保険特約等付帯施設賠償責任保険及びスポーツ安全協会傷害保険特約(学校管理下外担保)付帯普通傷害保険賠償責任担保条項))の概要についてご紹介したものです。ご加入の際には、必ず「スポーツ安全保険のあらまし」および「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は保険約款および特約書によりますが、ご不明の点がございましたら(公財)スポーツ安全協会または東京海上日動火災保険(株)までお問い合わせください。

平成29年12月作成 17-TC00823